二十歳（はたち）を迎えた青少年ホーム

勤労青少年ホームは、働く青少年の皆さんに、余暇を楽しく有意義に過ごしてもらうため、昭和四十一年九月にオープンし、昨年で二十歳を迎えました。この間、数多くの若者に憩の場、仲間づくりの場として利用されてきました。

現在ホームでは、十二の教室と十のサークルがあり、五百人以上の若者が活動しています。

勤労青少年ホームサークル協議会長の、佐々木淳さんに、ホームを利用してのお話を伺いました。

「ホームという存在は、私の人生を変えてくれました。もしホームを知らなかったら、多くの友だちと出会えなかったでしょうし、いろんな貴重な経験もできなかったと思います。みんな一日の仕事の疲れも見せずに、笑顔でホームにやって来て、夜がふけるのも忘れて仲間たちとサークル活動に汗を流す、それがホームの良いところです。ホームを利用しているサークルの一部を紹介しますと、楽しく社交ダンスをして壮快な汗をかいてみたい方は〝音響友の会〟。バイクとの正しい付き合い方を学びたい方は〝フリーウエイ〟。テニスをやってみたい方は軟式サークルと硬式サークルがあります。そのほか、混声合唱団〝コーロカンパネラ〟、茶道裏千家〝千寿会〟、〝小林寺拳法〟などのサークルがあります。また、サークル同士の交流会やスキーレク、そして利用者が一番楽しみにしている〝ホーム祭〟なども行っていますので、若者の皆さん、ぜひホームへ遊びに来てください。」

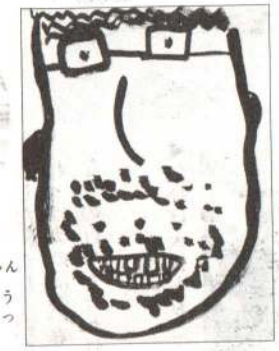
勤労青少年ホーム
☎42～0872

▶20周年記念ホーム祭の一コマ

ちびっこギャラリー おとうさん

桂城幼稚園

はたけやまゆうこちゃん
トランプをして遊んでくれるおとうさんが好き。



みさわりょうちゃん
にっこりしているおとうさんが好き。でも、もっと遊んでほしい。

あぶかわかつこちゃん
おとうさんは、かっこいいから好き。

われらサークル仲間

大館少年少女発明クラブ

大館少年少女発明クラブは、子供たちの創造性を養うために、昭和五十七年一月に県内では初めて、東北でも十和田市に続いて二番目にできました。

このクラブで活動しているのは、市内小学校三年生以上の子供たち約六十人。市発明工夫教育研究協議会に所属している小・中学校の先生方から、毎週土曜日と毎月第四日曜日に桂城児童センターで指導を受けています。

クラブの事務局長である大槻一先生は「学校では教えないような事を中心に指導しています。始めは、ナイフでエンピツを削る練習をさせます。電気エンピツ削り機しか使ったことのない子供たちは、長いエンピツが短くなるまで削っても、シンをうまく整えれません。そのほか、リンゴの皮をむかせるとか、はしを使って大豆を皿から皿へ移す競争をさせるなど、指先を器用に使うための基礎訓練を行います。次に自分のアイデアによって計画、設計、工作させ、そして完成した後に、工夫改良についての物の見方、考え方などの話し合いをし、子供たちの創造性を伸ばすことに重点をおいています。また将来を想像して〝夢の絵〟を描かせることもしています」と話します。

全国発明工夫展で毎年入賞者を出しているこのクラブに、昨年四月から入った、桂城小学校三年秋元平光君は、「最初はナイフをうまく使えなかったけど、今はうまくできるよ。自分で考えていろんな物を作るのって、とても楽しい。中学生になっても、発明クラブを続けたいと思います。」と張り切っていました。

▲工作をする子供たち

地名の由来

大町・中心地で、大きい町であるので名付けられた。（もと、荒町）

弁天町・弁天神社があるので名付けられた。

新富町・馬喰町にあった、貸座敷や料理屋を移して町をつくり、新しく富み栄えるように名付けられた。

愛宕町・愛宕神社があるので名付けられた。

田町・水田に通じる道であったので名付けられた。

川原町・長木川原にある町なので名付けられた。

栄町・栄えるように名付けられた。

独鈷町・比内町独鈷の浅利家家臣らが、大館佐竹公に服して移り住んだので名付けられた。

達子勝蔵著
「桂城文化と人物」から

次回は「上川沿地区編」をお送りします。